



## 天文学はこんなに楽しい

縣 秀彦 監修

誠文堂新光社 219 ページ 定価 1,400 円

読み物  
お薦め度  
☆☆☆☆

トリビアという言葉がはやっている昨今であるが、この本は、帯に謳ってあるとおり「雑学を超えた『超』教養シリーズ」であり、天文学の基礎知識に加えて「みんなが子供時代に抱く素朴な質問にもバッチリ！」答えてくれる。Tips 01 水星から、Tips 100 天文学者まで、天文のトピック 100 について、1 トピックに見開き 2 ページを割り、白黒写真や図表入りで説明してある。夕日はなぜ赤い、夏はなぜ暑い、自分の名前を星に付けるには、地球外生命、太陽系、恒星、銀河、宇宙の中心・果て・始まり、暦（なぜ 1 週間は日月……土、1 月 1 日はどうやって決めた）、はては、地動説、SDSS、電波・赤外・X 線天文学、ガンマ線バースト、ニュートリノ・重力波天文学まで、これを読めば天文学のすべてが広く分かる。しかしそれぞれを 2 ページ内で、そこはその割には結構な深さまで記述してあるので、ゆっくり丁寧に読んで欲しい。各ページ欄外に「補足」があり、キーワード等は詳細に説明してあるので理解も深まる。

内容は大学 1 年生レベルであり、教養科目のテキストとしてもいいかもしれない。もしこの本をもとに話をするとすれば、1 テーマで 20 分はかかるだろう（もちろん補強は必要だが）。大学の 1 講義 90 分で 4 テーマをアラカルト的に話すとする、100 テーマで 25 講義つまり 1 年分の講義になる。たいへんな量である。新聞の元科学記者と元プラネタリウム解説員と現役の大学院生が手がけたとあって、科学的にも正しく書かれている。誤

植もない。これだけの分量で、疑問な表現は 2 カ所しかなかった。

この本で特筆すべきは、最新情報が載っているということである。2004 年からの火星探査の最新情報も、2005 年 1 月のホイヘンスのタイタン着陸の節もある。この 7 月に打ち上げられたばかりの「すざく」衛星や、やはり 7 月に NASA から発表された第 10 惑星?!—2003 UB 313 や、7 月のディープインパクトについても記述してある。近年巷で広まったフォトンベルトの文字もある。宇宙と一口に言っても実にさまざま、「宇宙は不思議の玉手箱」それを分かりやすく説明してあるので、楽しめ、かつ、ためになる。第 2 版発行となった際には WMAP 宇宙論やインフレーションの節も是非設けていただきたい。

アマチュア天文の誠文堂新光社だけあって、星好きにはたまらない内容に仕上がっている。天文に興味のある小学生高学年から中学生・高校生のみなさん、天文アマチュアの方々、専門は天文だけど部分的にしか知らない大学生の方々、天文の教養で何を教えるか迷っている講師の先生、一度手に取られてみることをお勧めします。仕事で頭が疲れたときに気分転換で 1 節、夜眠れないときに 1 節。これからの秋・冬の夜長、こたつに入って一読などもいかがでしょうか？

三原建弘（理化学研究所）